

2023 年度 2Q 決算説明会 主な質疑応答
(2023 年 11 月 8 日開催)

<電子・先端プロダクツ>

Q1：アセチレンブラックの xEV 向け用途における、カーボンナノチューブとの競合状況は？

A1：xEV 市場において、カーボンナノチューブとの競合があるなか、当社のアセチレンブラックは一定のシェアを保っている。今後は、アセチレンブラックとカーボンナノチューブをミックスして使用する評価も進んでおり、xEV 市場の拡大と合わせて、需要の増加が期待できる。

Q2：電子・先端プロダクツは 1Q から 2Q にかけて収益が改善しているが、半導体の民生向け需要は底を打ったのか？

A2：半導体の民生向け需要は底を打ち、徐々に回復をしている。特に生成 AI などに使用される高性能な半導体需要の増加に伴い、ハイエンド向けの特殊グレードの需要が最初に伸びてきている状況。

Q3：球状アルミナを使用している一部のユーザーが昨年度に販売シェアを落とした影響は、御社にどのような影響を与えているか？

A3：今年度は影響が出ているが、足元では、ユーザーのシェアも回復しており、徐々に回復していくと見込んでいる。また、xEV に使用されるオンボードチャージャー向けの需要伸長に加え、以前より放熱特性が求められる高性能な半導体向けの封止材用途での需要増加も見込んでいる。

<ライフイノベーション>

Q4：通期の営業利益予想を上方修正しているのは、新型コロナウイルスとインフルエンザを同時に検査できるコンボキットの販売増加が見込まれるためか？

A4：コンボキットの販売が増加していることに加え、新型コロナウイルスやインフルエンザ以外の感染症も増加しており、様々な迅速診断キットの販売が増加しているため。

<エラストマー・インフラソリューション>

Q5：今年度の営業利益が、上期▲16 億円から下期▲59 億円へ悪化する要因は？

A5：下期は毎年 10 億円規模の定修を行うことに加え、今期は他社品との競合激化により、販売価格が下落する見通しであることが主要因。加えて、上期は、雪解け水による水力発電の稼働が高いことや、在庫の受払影響なども上期、下期の差となっている。

Q6：米国 DPE (Denka Performance Elastomer LLC：米国クロロプレンゴム製造子会社) の損益状況は？

A6：インフレによる修繕費や労務費の高騰により固定費が増加していることに加え、プラント設備の老朽化への対応などにより修繕項目も増加しており、クロロプレン事業の収支を圧迫している状況が続いている。

<全体>

Q7：年間配当を120円から100円まで減額させたが、キャッシュを捻出することで、配当の原資を確保することは出来なかったのか？

A7：政策保有株式の売却等の対応は行っているが、今年度の営業利益が190億円と昨年度の323億円を大きく下回る見通しであることから、総還元性向50%の基本方針を含め、総合的に判断し、誠に遺憾ながら、年間配当を昨年度と同額の100円とした。

Q8：棚卸資産の増加が目立っているが、具体的にどの事業や製品で積み上がっているのか？今後、稼働率が下がることにより利益を圧迫することにならないのか？

A8：9月末の在庫増加の主な要因は、下期に出荷を控えているインフルエンザワクチンと、下期の定期修繕に備えている電子・先端プロダクトの一部の製品。来期以降、販売数量が増加した際には、在庫に繰り越した固定費部分が、利益を多少圧迫することになると思うが、大きなインパクトを与える程ではない。

以上